

ギュツラフ訳聖書 について

最古の日本語訳聖書

ギュツラフ訳聖書は、現存する最古の和訳聖書です。日本にキリスト教を宣教するため、「約翰福音之傳(ヨハネによる福音書)」と「約翰上中下書(ヨハネの手紙1、2、3)」がドイツ人宣教師カール・ギュツラフによってマカオで翻訳され、1837年シンガポールで出版されました。

「約翰福音之傳」

出版部数：1,690冊

現存部数：16冊(内、2冊を日本聖書協会が保有)



ギュツラフ訳聖書の文章

「ハジマリニ カシコイモノゴザル。コノカシコイモノ ゴクラクトモノゴザル…」
ギュツラフ訳ヨハネによる福音書の冒頭の部分です。一般の人が読めるように、カタカナで書かれています。

ギュツラフには語学の才がありましたが、十分な教育を受けていない日本人船乗りを助手として翻訳したのですから、その文章は日本語として不完全でした。

また、この文章の中には、アスコ(あそこ)、アヨブ(あるく)、アーヌイテ(見あげて)などの尾張方言が混入されており、音吉達の言葉遣いの影響を見ることができます。

ギュツラフ訳聖書の意義

ギュツラフ訳聖書は、直接日本で用いられることはありませんでした。初刷り以外にその後3回印刷されたようですが、1838年翻訳が満足なものではないという理由で、印刷は中止されています。

しかし、彼の翻訳は、明治以降日本において本格化する、聖書翻訳事業の端緒となるものでした。1859(安政6)年、後の聖書和訳の中心人物となるヘボンが、ギュツラフ訳「約翰福音之傳」を携えて来日したのです。

ギュツラフ訳聖書、音吉に関する文献

聖書と訳について：海老沢有道著「日本の聖書 聖書と訳の歴史」日本基督教団出版局
ギュツラフ訳聖書について：「約翰福音之傳 約翰上中下書 復刻版」別冊 新教出版社
ギュツラフについて：都田恒太郎著「ギュツラフとその周辺」教文館
音吉について：春名徹著「にっぽん音吉漂流記」晶文社
田中啓介著「奇談・音吉追跡」
Leong Foke meng 著 “The Career of Otokichi” (日本語訳付) シンガポール日本人会

●本パンフレット掲載の資料は愛知県美浜町より提供いただきました(2009年10月現在)。

聖書と訳頌徳碑記念式典

主催 愛知県美浜町、財団法人日本聖書協会

●奇数回を聖書協会、偶数回を美浜町の主催で年に一度開催しています。

発行  財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル

TEL.03-3567-1988 FAX.03-3567-4451

2009.10

初めて 聖書と訳頌徳碑記念式典

に出席された皆様へ

聖書と訳頌徳 記念碑とは？

皆さんは、現存する最古の日本語訳聖書「ギュツラフ訳聖書」をご存知でしょうか。1837(天保8)年、ドイツ人宣教師ギュツラフによってシンガポールで出版されました。そのギュツラフによる聖書翻訳を助けたのが、尾張小野浦出身の三人の日本人船乗り、岩吉、久吉、音吉(略して三吉)だったのです。記念碑は、聖書翻訳事業に協力した三人を記念するために、1961(昭和36)年、日本聖書協会と愛知県委員会の中心となって、小野浦に建てられました。



頌徳記念碑 今、昔

記念碑にまつわる出来事

1960年 三吉が美浜町出身であることが判明

日本聖書協会総主事都田恒太郎がロンドン大英博物館、シンガポールの古文書館を調査した結果、ギュツラフの翻訳を助けた日本人がいたことが確認されました。彼らの名前はイワキチ、キュウキチ、オトキチといい、オノウラ出身であることが記録に残っていたのです。1960年、都田の委託を受けた高橋秋蔵氏が三人の名前を美浜町の良参寺の過去帳に発見。オノウラが美浜町の小野浦で、三吉が実在したことが明確になったのです。

1961年 頌徳記念碑設立、第一回記念式典

第一回記念式典には、ドイツ大使ウィルヘルム・ハース氏、同夫人、桑原愛知県知事、千田名鉄社長など三百名が出席しました。



第一回記念式典に参列されたドイツ大使

式典に関するその後の主な活動と出来事

- 三浦綾子著「海嶺」が出版、松竹映画「海嶺」が公開(1983年)
- 「にっぽん音吉トリアスロンin知多美浜」開催(1992年より年に一度)
- 美浜町、草の根国際交流の旅を主催し、各国を訪問。シンガポール、米国ワシントン州・ハワイ州、英国ロンドン・バンガー等で音楽劇「にっぽん音吉物語」上演(1993年～)

その後発見された事柄、明らかになった事実

- ギュツラフ夫人の墓が確認される(1999年)
- 音吉の息子ジョン・ウィリアム・オトソンの存在が確認される。日本国籍を取得し、山本乙吉と改名。2003年神戸で戸籍も発見

以降、年に一度
美浜町と日本聖書協会が
交替で式典を主催

2004年 音吉の墓がシンガポールで発見される

2005年 音吉の遺灰、日本へ帰還

音吉の遺灰の一部が日本に送られました。現在美浜町の良参寺、宝順丸乗組員の墓に納められています。

現在の式典に至る

世界を 巡った三吉

岩吉、久吉、音吉の軌跡

三吉の足跡を辿る 5つのポイント

POINT 1

三吉は、記録で特定できるアメリカに足を踏み入れた初の日本人と言えます。

POINT 2

三人はロンドンを訪問した初の日本人でもあります。

POINT 3

三人はマカオで、現存する最古の日本語訳聖書である「ギョツラフ訳聖書」の翻訳を助けた。

POINT 4

結果的に、彼らは世界一周を果たした初の日本人となったのです。

POINT 5

音吉は日本人として初めて、シンガポールで英国に帰化しました。

1

岩吉、久吉、音吉(三吉)は、知多半島の小野浦出身の船乗りでした。1832(天保3)年、三人は他11人の船乗りと共に宝順丸に乗って鳥羽より江戸に向けて出帆しましたが、遠州灘付近で遭難。太平洋を漂流しました。

2

1834年、14か月の漂流の後、宝順丸はアメリカ西海岸に漂着しましたが、生き残ったのは岩吉、久吉、音吉のみでした。彼らは原住民のマカ族に救助されました。

3

三人はハドソン湾会社の支配人に引きとられ、フォート・バンクーバーで初めてキリスト教と英語を知りました。その後ロンドン経由でマカオに送られることとなりました。

4

1835年、ロンドンから喜望峰を回って、マカオに到着しました。マカオで三人は、プロシヤ生まれでオランダ伝道協会の宣教師、カール・ギョツラフの家に滞在することになりました。ここで、三人は聖書の日本語翻訳を助けたのです。

5

1837(天保8)年、三人はモリソン号で日本を目指しました。しかし異国船打払令が出されていたため、浦賀と鹿児島で砲撃され、日本に帰国することはできませんでした。

6

岩吉、久吉については、その後詳しいことはわかっていません。音吉は、通訳として活躍した他、上海、シンガポールに居住し、事業でも成功しました。

岩吉、久吉、音吉の世界一周の軌跡



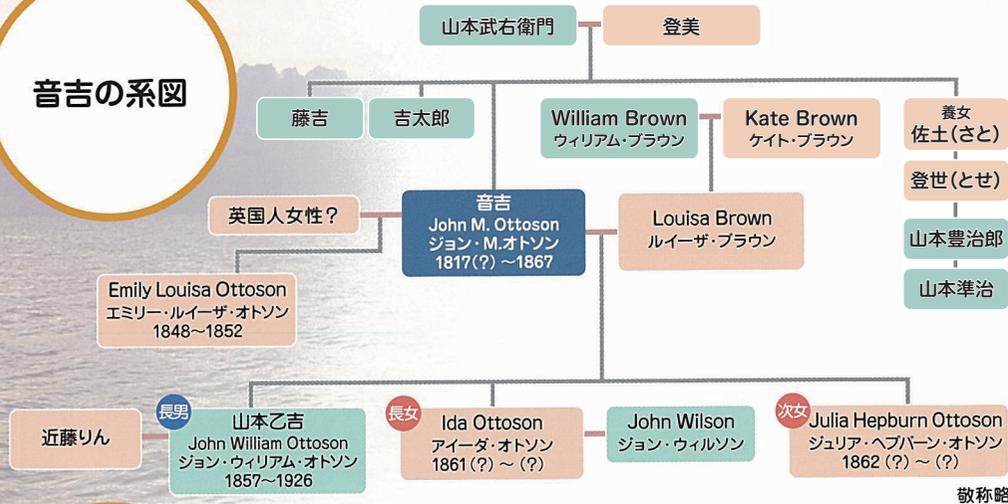
音吉の略歴



- 1819年 尾張国知多郡小野浦村に生まれる
- 千石船「宝順丸」の船乗りとなる

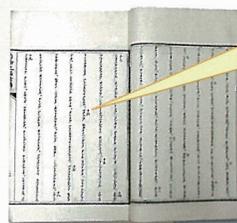
- 1832年 宝順丸遭難
- 1834年 アメリカワシントン州ケープ・アラバの海岸に漂着
- 1835年 ロンドンを經由してマカオ到着
マカオ滞在中にギョツラフの聖書と訳を助ける
- 1837年 モリソン号で日本に向かうが、砲撃を受ける
- モリソン号事件の後、上海に住む
- 1843~58年 上海にて日本人漂流民を援助する
- 通訳としても活躍する(1854年 日英和親条約締結時など)
- 1862年 シンガポールに移住
シンガポールにて遣欧使節団を訪れ、福沢諭吉と会う
- 1864年 イギリスへ帰化
- 1867年 シンガポールにて死去

音吉の系図



三吉が 翻訳を助けた ギョツラフ訳聖書

三吉が協力した「ギョツラフ訳聖書」です。現在の新共同訳聖書の文章と比べてみてください。



ゴクラク セカイノニンゲンヲ タシカニ
カワイガル、シトリムスコヲ トラシタ…
(ギョツラフ訳「約翰福音之傳」三章十六節)

神は、その独り子をお与えになったほどに、
世を愛された…
(新共同訳「ヨハネによる福音書」三章十六節)

ギョツラフ訳「約翰福音之傳」